

## 第2部



# えひめ結婚戦略サポート事業 報告書



一般社団法人 愛媛県法人会連合会

## 1. 婚活者のビッグデータを利用した分析

### 1) 目的

婚活者の結婚（や交際、子どもなど）に対する考え方を明らかにし、結婚に影響を与える、主に内的（意識的）・外的要因を探る。

### 2) 概要（平成 30 年 1 月現在）

#### ①結婚支援イベント（平成 20 年 11 月～）

- ・ イベント開催数：2,217 回
- ・ イベント参加人数：64,627 人（男性：32,371 人、女性：32,256 人）
- ・ カップル数：8,874 組

#### ②愛結び（1対1お見合い）

- ・ 登録者：6,798 人（うち現会員数 1,735 人 退会者 5,063 人）
- ・ お相手閲覧：48,798 人
- ・ お引合申込：36,197 人
- ・ お見合成立：7,269 組
- ・ カップル数：3,283 組
- ・ 結婚報告数：467 組（センターに連絡のあった組数）

### 3) 仮説

- ① 年齢が高くなるほど結婚願望は強くなり、次のステップにすすみたいが、自身のこだわりのために次のステップに進みづらくなる。
- ② 地区別にみると、東予や南予ではステップ①「交際・結婚願望」はあるが出会いがないので進めない人が多いが、そこを越えさえすれば出会ってから結婚まで順調に進む傾向がある。
- ③ ステップ②「出会い」から④「交際」に進めない人では、結婚相手に求める条件が高い傾向がある。
- ④ステップ③「交際」から「結婚」に進めない人は、内的要因「働きたい、やりたいことがある」と外的要因「同居や介護、連れ子など、自分と相手の環境など」が高まっている。

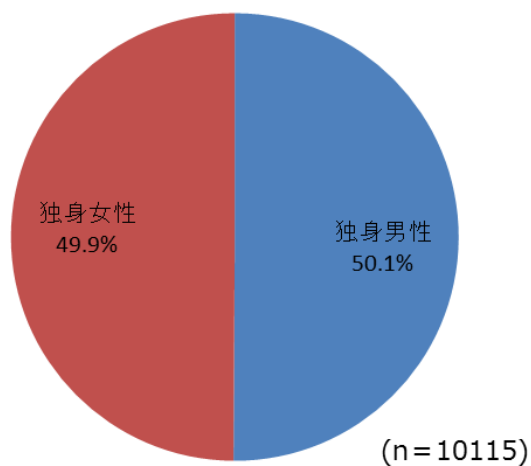
### 4) 結果と分析

婚活の中で、「出会い」を意識した複数対複数（イベント）と「交際」を意識した1対1のお見合い（愛結び）との参加者の「第一に相手に求める条件」を性別、年齢別、地区別に集計し傾向を確認した。

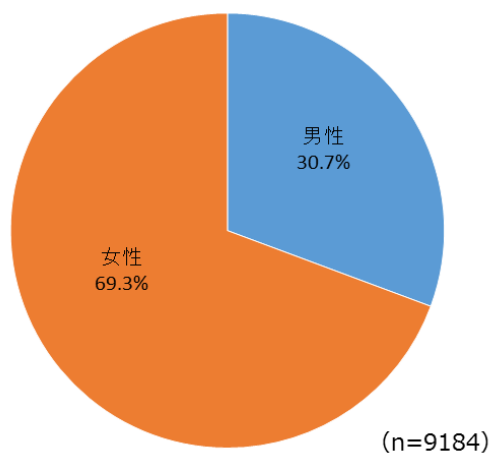
### ①性別

- ・「出会い」を意識したイベントについてメルマガ登録などで積極的に活動しているのは男女とも差はない。
- ・「交際」を意識した愛結びの登録者を比較すると男性より女性の方が積極的に婚活活動を行っている傾向がある。
- ・愛結び登録者は男女共通に上位の「年齢」を重視する傾向があり、男性は「タバコを吸うか」「子供の有無」「婚歴の有無」で女性を上回るが、女性はその他に「職業」「年収」「身長」「最終学歴」で男性を上回る。
- ・愛結びの参加者で年齢を第一のこだわりにした男女は、男性は年齢が上がるほどこだわりが高くなり、女性は低くなる。

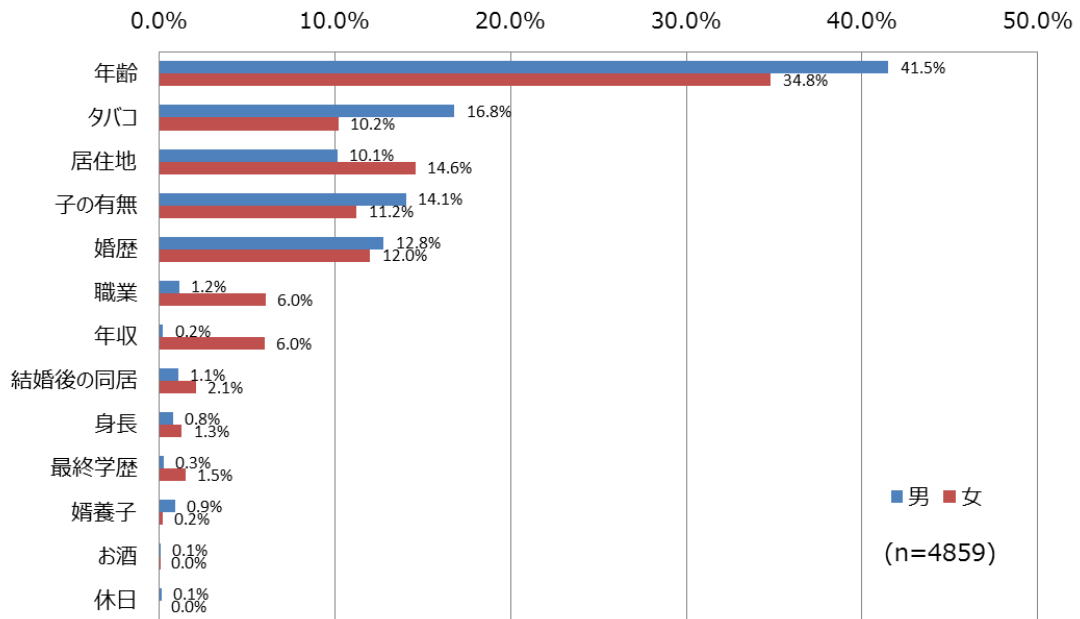
イベント 参加者



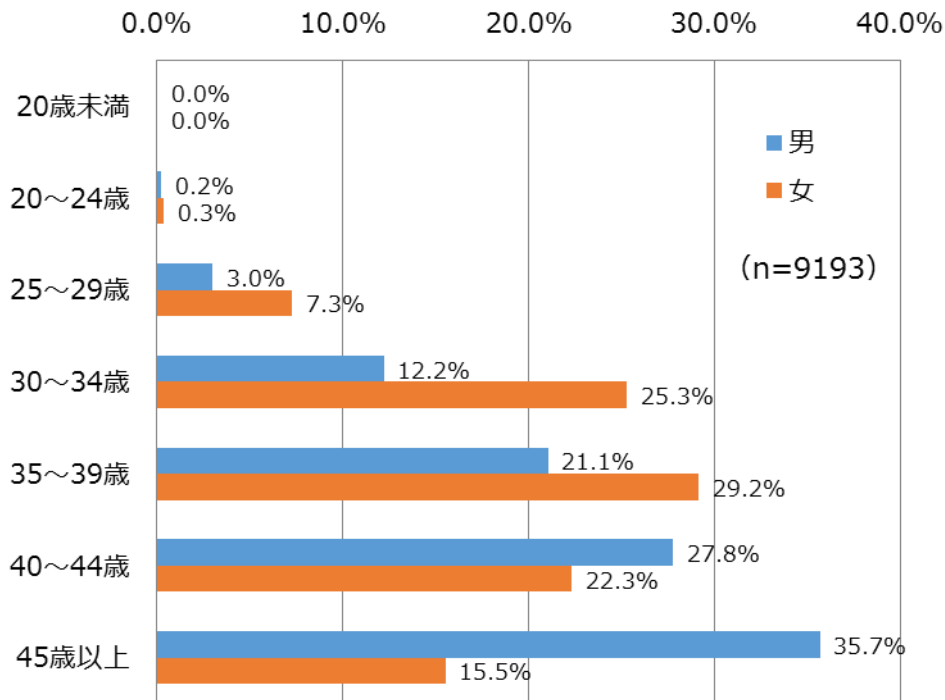
愛結び 男女別登録者数



### 愛結び 男女別のお相手のこだわり



### 愛結び：男女別年代別「年齢」へのこだわり



## ②地域

- ・愛結び登録者を比較すると東予、南予地区では女性より男性が、中予地区では男性より女性が積極的に婚活活動を行っている傾向がある。
- ・イベント参加者のアンケートで相手に一番求めることのアンケートでは地区別には大きな差は見られない。

### <東予>

- ・東予地区では女性と比較して男性の愛結び登録者が多く、男性の方が積極的に婚活を行っている傾向がみえる。
- ・相手に求める条件として「年齢」「タバコ」以外に「婚歴」「子供の有無」にこだわる傾向がみられた。
- ・イベント参加者については相手に求めることに大きな差はみられない。

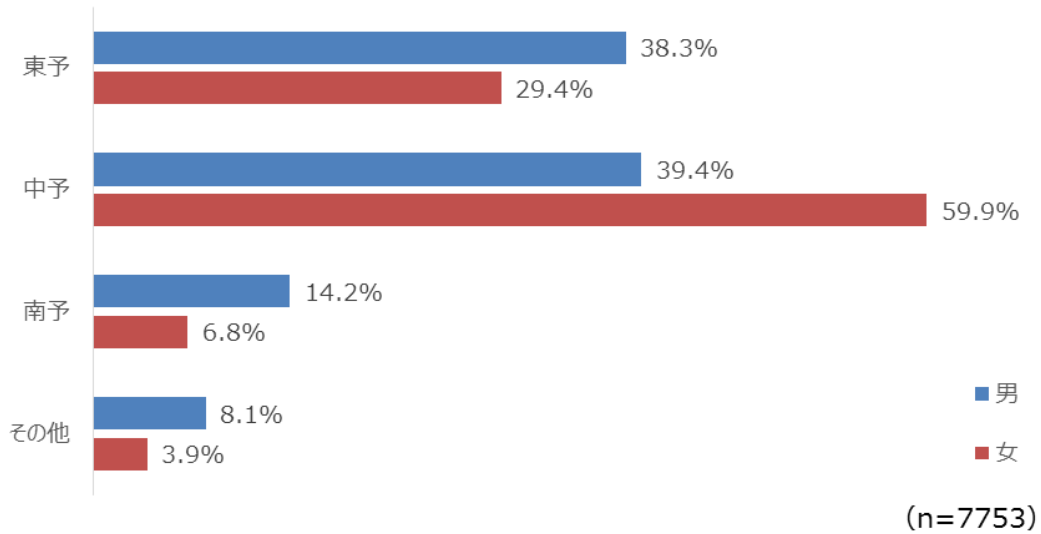
### <中予>

- ・中予地区では女性の愛結び登録者が多く、女性の方が積極的に婚活を行っている傾向がみえる。
- ・相手に求める条件として「年齢」「タバコ」以外に、相手の「職業」や「年収」についてこだわる傾向がみえた。
- ・イベント参加者については相手に求めることに大きな差はみられない。

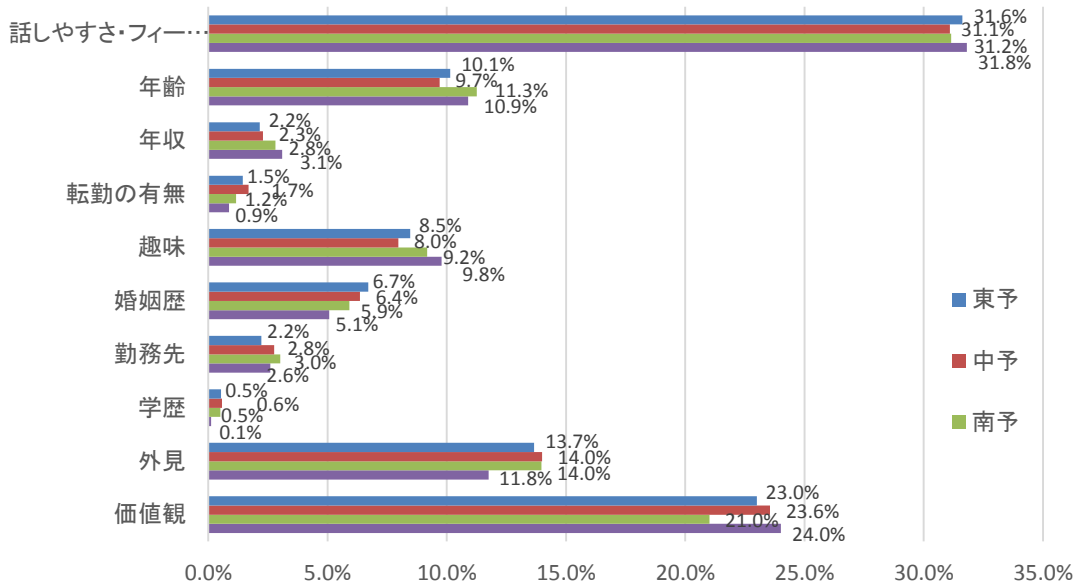
### <南予>

- ・南予地区では男性の愛結び登録者が多く、男性の方が積極的に婚活を行っている傾向がみえる。
- ・相手に求める条件として「年齢」「タバコ」以外にやや「婿養子」「結婚後の同居」にこだわる傾向がみられた。
- ・イベント参加者については相手に求めることに大きな差はみられない。

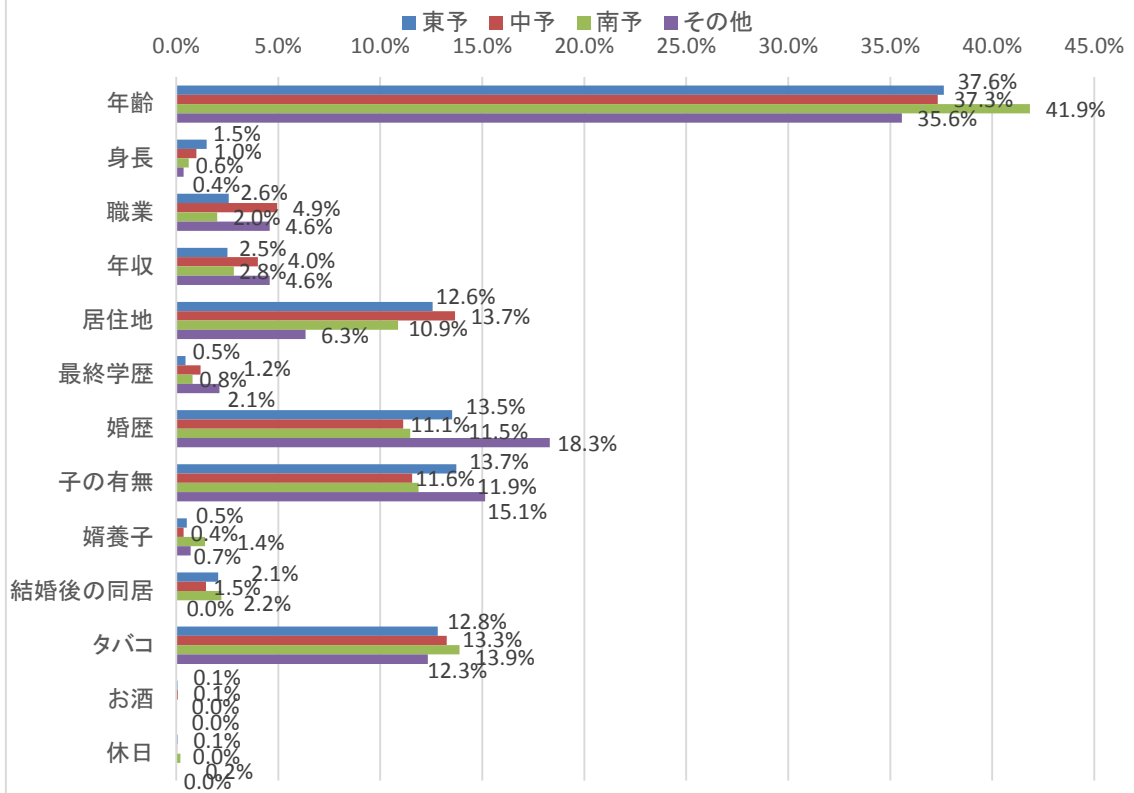
## 愛結び：地区別男女別登録者数



## イベント 地区別相手にもとめること



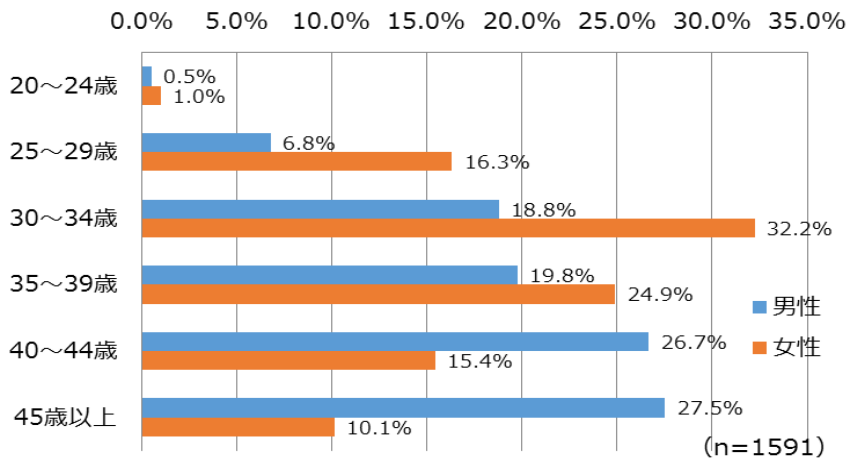
## 愛結び：地区別のお相手へのこだわり



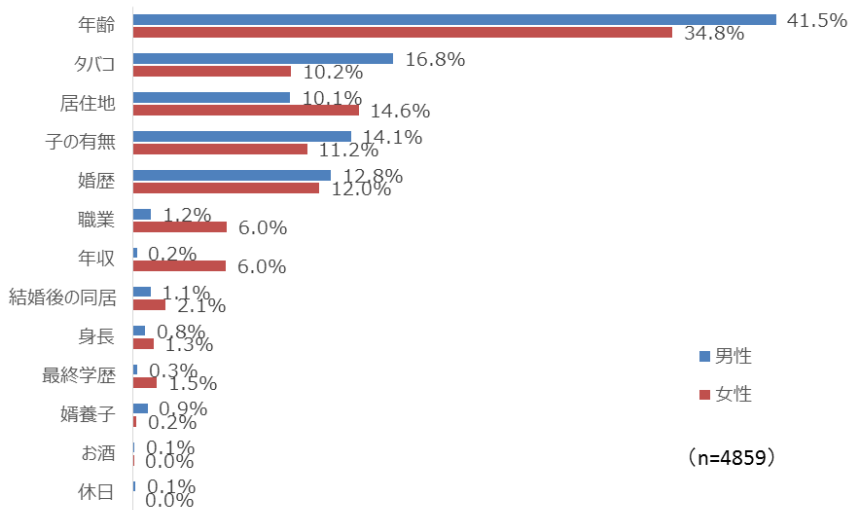
### ③年齢

- ・愛結び登録者を比較すると女性は早くから婚活を行い年齢と共に少なくなるが、男性は年齢が上がるほど積極的に婚活を行うようになる傾向がある。
- ・愛結び登録者は男女共通に上位の「年齢」を重視する傾向があるが、男性は自身の年齢が上がるほど相手の年齢へのこだわりが高くなり、女性は逆に低くなる傾向がみられる。
- ・イベント参加者については逆に、35～39歳をピークに相手の年齢に強いこだわりがみえるが、徐々に少なくなる傾向が見える。

### 愛結び 男女別年代別登録者数

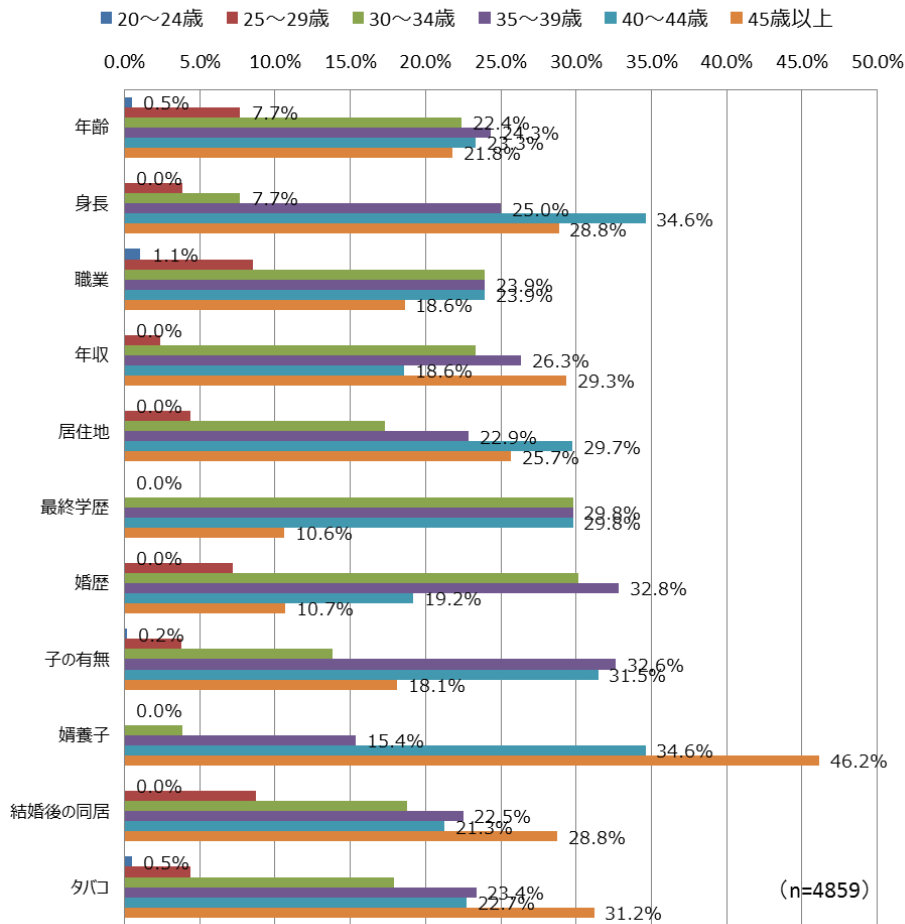


### 愛結び 男女別のお相手へのこだわり

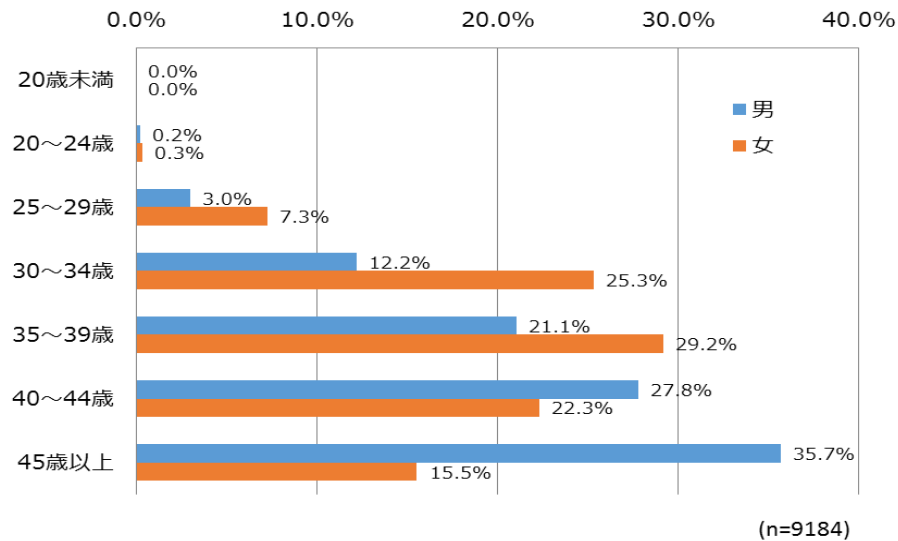




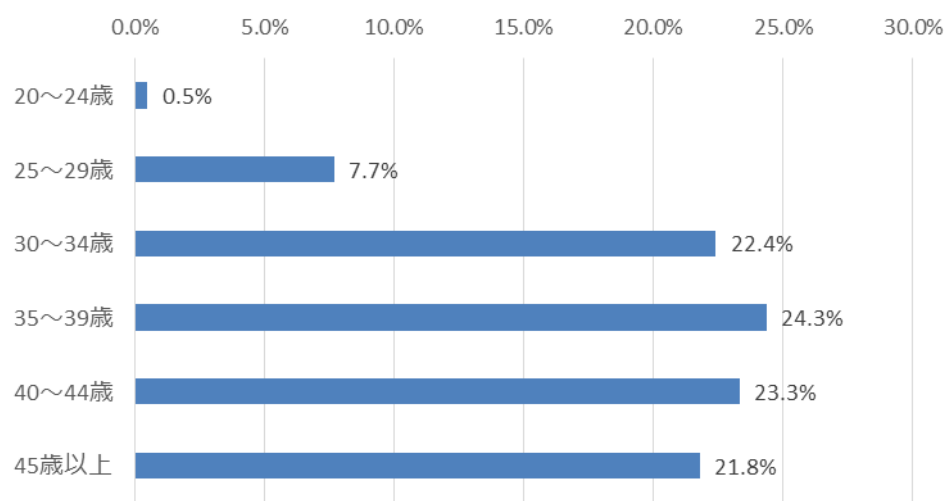
### 愛結び 年代別のお相手へのこだわり



### 愛結び：男女別年代別「年齢」へのこだわり

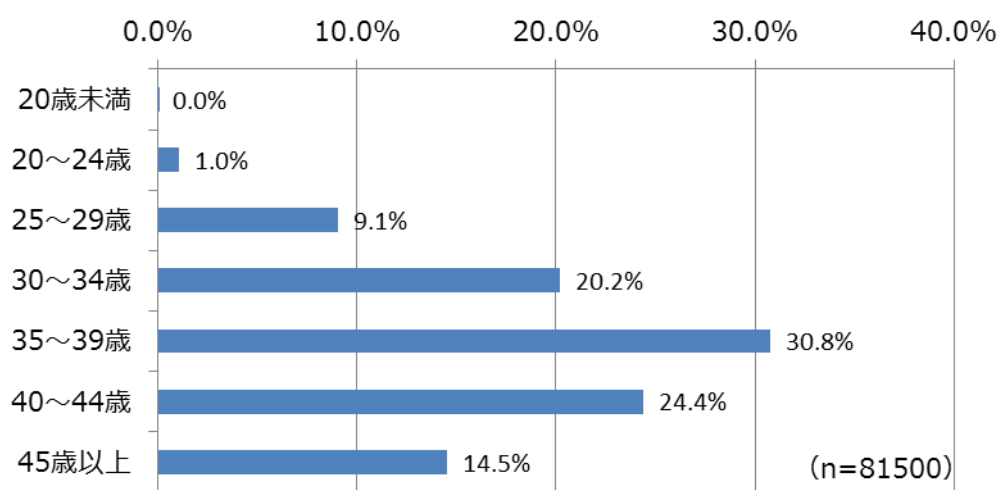


### 愛結び 年代別「お相手の年齢」へのこだわり



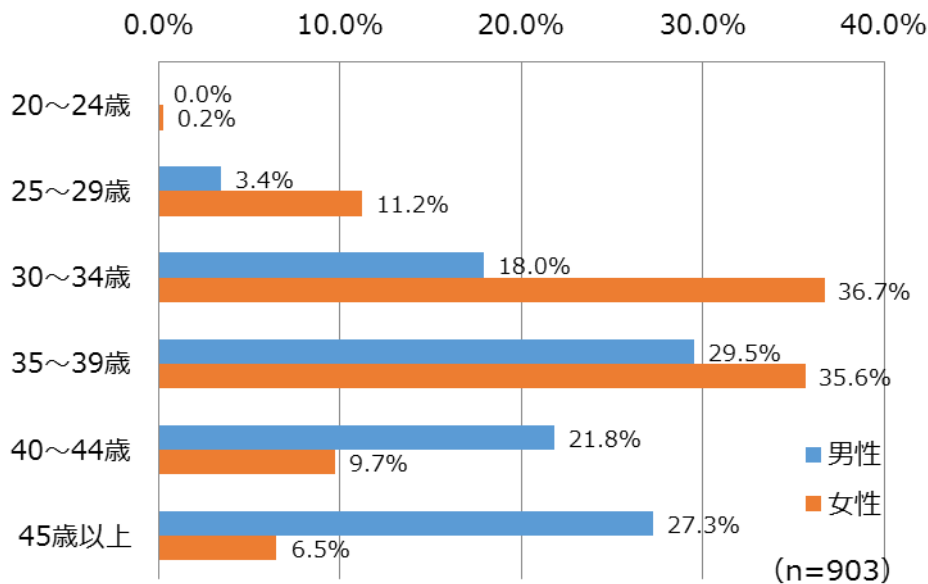
(n=1036)

### イベント 年代別「お相手の年齢」へのこだわり



(n=81500)

## 愛結び 男女別年代別成婚数



結婚に対して積極的と思われる婚活者について分析する。

第一ステップの「出会い」を意識したイベント参加者については男女とも差はないが、次のステップの「交際」を意識した愛結びについては男性より女性の方が積極的に行動する傾向がみられる。

地区別には第一次産業の多い東予、第二次産業の多い南予に関しては男性の愛結び登録者が多く、逆に第三次産業の多い中予地区では女性の登録者が多くなる。

年齢別にみると愛結びに関して女性は30~34歳が32.2%と一番多く年代が上がる毎に減少していくが、男性は30~34歳が18.8%、35~39歳が19.8%、40~44歳が26.7%、45歳以上が27.5%と年代と比例して登録者数が増加する。

またお相手に求めるこだわりについては、愛結び登録者では男女とも第一位から「年齢」「タバコ」「居住地」「婚歴」「子の有無」の順になっているが、男性は「年齢」「タバコ」「子の有無」で女性を上回り、女性は「居住地」で男性を上回る。また、「職業」「年収」については女性にこだわりがみえる。イベント参加者については「話しやすさ」「価値観」「外見」等が上位となるが地区的な差はない。愛結びでは「年齢」「タバコ」「居住地」「婚歴」「子の有無」等が上位にあげられるが「居住地」「婚歴」「子の有無」に関する差は男女の登録者数の影響で地区別の差ではないと思われる。

男女とも「相手へのこだわり」のトップにあげる「相手の年齢」について女性は 35～39 歳の 29.2%をピークに年齢の上昇とともに減少していくが、男性が逆に年齢の上昇と共にこだわりも上昇していく。

「出会い」に関する行動については、男女、地区別、年齢別の大きな差は見られないが「交際」については女性の方がやや積極的ではある。男女ともに「愛結び男女別 年代別登録者数」と「愛結び男女別年代別成婚者数」よく似た形で推移しているため一定の効果が上げられていると考えられるが、男女ともに活動の開始年齢を女性の成婚のピークとなる 30～34 歳よりも早い 20 代から開始することで更に望ましい結果が得られるものと考えられる。

また地区別には登録者の男女比率以外で大きな差は見られないため、登録者がバランスよく広域に 20 代から婚活を開始する環境が必要である。

また特に男性に関しては、お申込みに対する成功率が下がる自らの年齢の上昇に比例し、逆にお相手の年齢に対するこだわりが強くなる傾向が見える。自らのこだわりが「交際」への障害となっているため意識を改善する対策が必要であると思われる。

交際から結婚に進めないカップルについては、えひめ結婚支援センターでカップルのフォローを行うボランティア推進員等への聞き取り調査が必要である。

## 2. 学生・新社会人向けアンケート

### 1) 目的

学生を中心とする未婚の若者の結婚（や交際、出産など）に対する考え方を明らかにし結婚に影響を与えるであろう主に内的（＝意識的）要因を探る。

### 2) 概要

愛媛県内外の大学生、短期大学生、専門学校生、入社1年目の新入社員を対象に、直接およびインターネットでアンケートを行った。

- ・ 期間：2017年7月～10月
- ・ 対象：県内外の大学生、短期大学生、専門学校生、入社1年目の新入社員
- ・ 回答数：1,098人（県内居住者995人、県外居住者103人）

	県内居住		県外居住		合計	
県内出身者	860	86.4%	81	78.6%	941	85.7%
県外出身者	135	13.6%	22	21.4%	157	14.3%
合計	995	100.0%	103	100.0%	1098	100.0%

### 3) 仮説

- ① 結婚を意識することが少ないと思われる学生・新社会人のなかでも、結婚に対してポジティブな考え方の人とネガティブな考え方の人がいる。
- ② 現在の周りの環境、今まで育ってきた環境が、結婚に対しての考え方に影響を与えている。
- ③ 結婚に対してポジティブな考え方を持つ層と、ネガティブな考え方を持つ層では、最終的に結婚へと導くための方法が変わってくるだろう。

### 4) 結果と分析

結婚（や交際、出産など）に対してネガティブな回答をした人とポジティブな回答をした人の取り巻く現在の周りの環境、今まで育ってきた環境で集計して分析を行う。

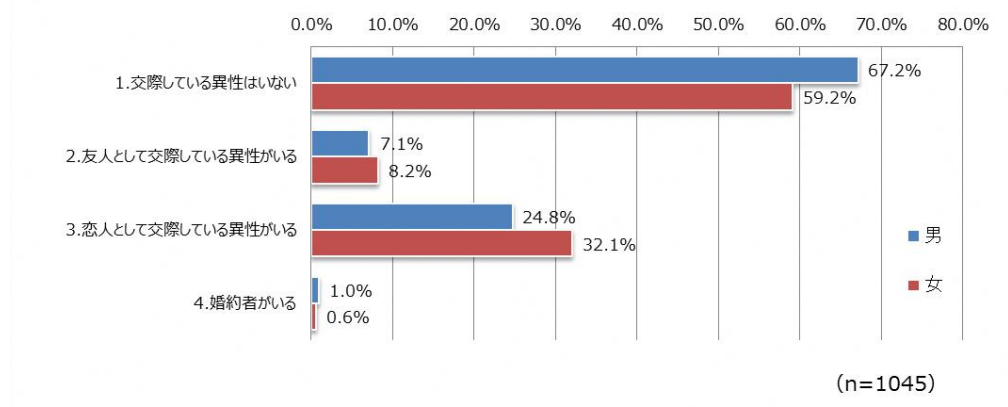
#### ① 交際

- ・ 交際している人は、男性24.8%、女性32.1%である。
- ・ 「現在交際している異性はいない」と回答した人の内、交際を希望すると回答した人は男女とも50%未満であり「異性との交際を希望しない」と回答した人は男女とも50%以上で男性がやや上回った。

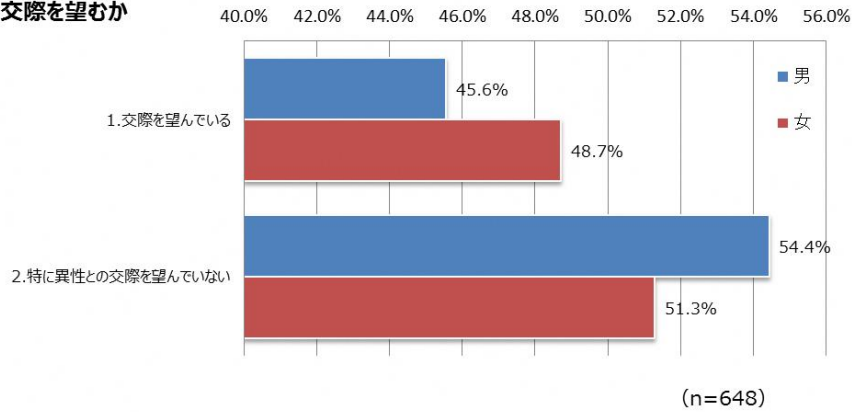
- ・大学生の理系と文系を比較すると理系の学生の方が「交際している人はいない」と回答する人が多い。
- ・理系の大学生については、75%の学生が「交際している異性はいない」と回答し、そのうち50%の人が「とくに異性との交際は希望しない」と回答している。
- ・短期大学生は82.4%の人が「交際している異性はいない」と回答し、そのうち44.7%の人が「交際を希望する」と回答している。
- ・学生と社会人では、卒業後1年未満の新社会人でも「交際している異性はいない」という回答が減少している。
- ・きょうだいの有無という育った環境の差では「きょうだい有り」の方が「恋人として交際している異性がいる」と回答した人が29.4%できょうだい無しの20.0%を上回る。
- ・「交際している異性はいない」と回答した人は「きょうだい有り」の59.5%に対して「きょうだい無し」の方が70.9%と上回るが、「交際を希望する」という回答も「きょうだい有り」の46.7%に対して54.7%と上回る。

現在の生活環境では、交際状況の回答者1045人中、おそらく独り暮らしと思われる県内出身で県外在住者と県外出身で県内在住者、おそらく家族と同居と思われる他の人を比較すると、全体的には63.2%が「交際していない」と回答したのに対して、家族と同居者では60.8%、独り暮らしでは45.0%となり、独り暮らしの若者の方が異性と交際する率が高い。

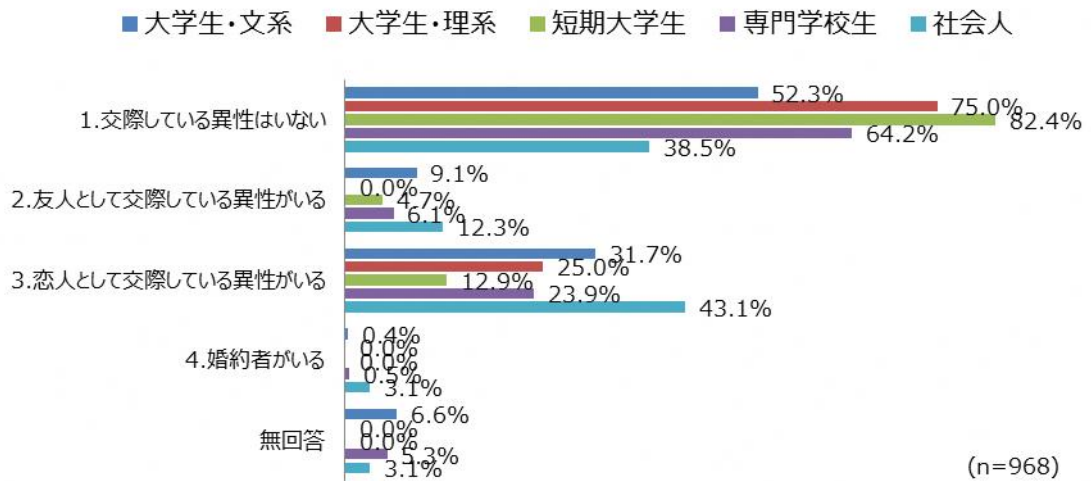
#### 男女別交際状況



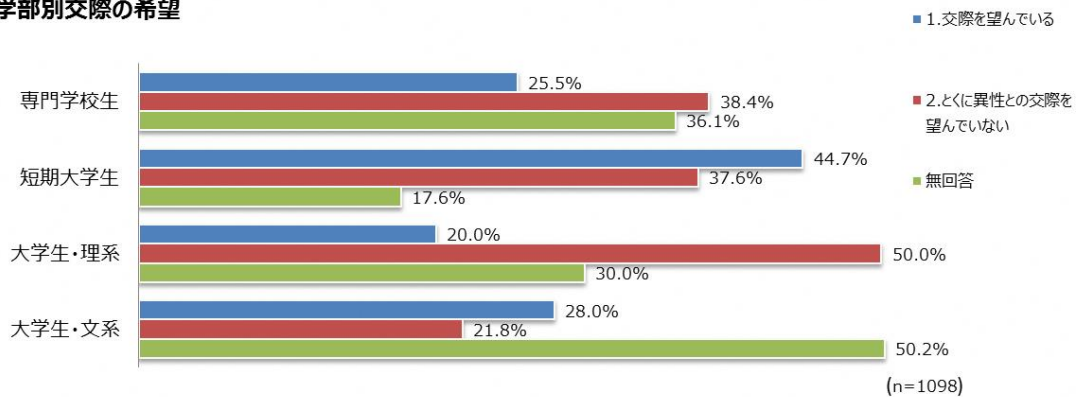
### 異性との交際を望むか



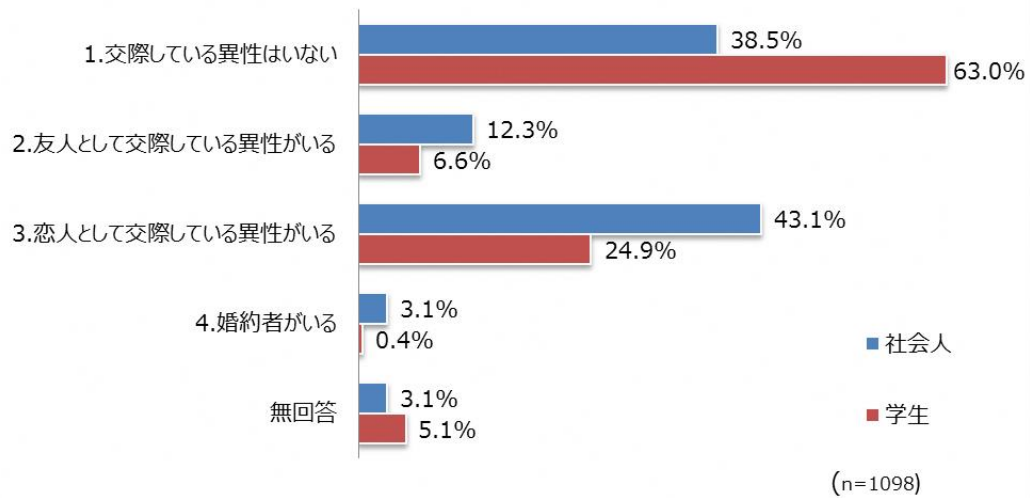
### 交際状況 (学生種別)



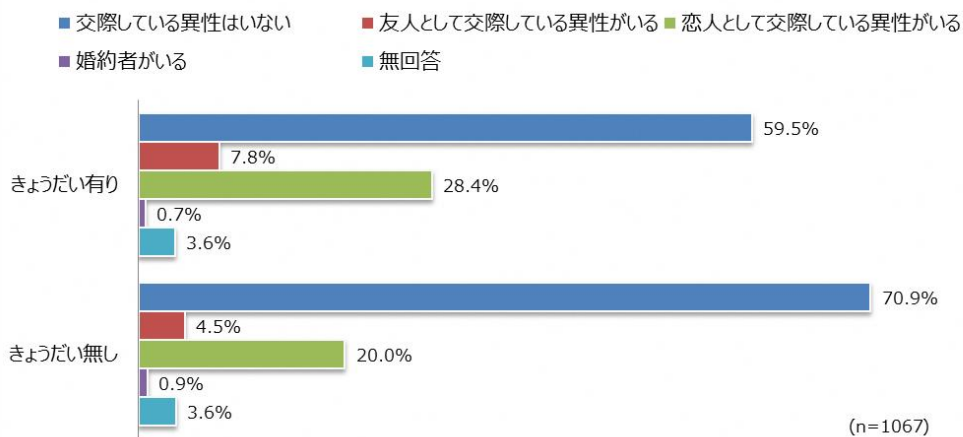
### 学部別交際の希望



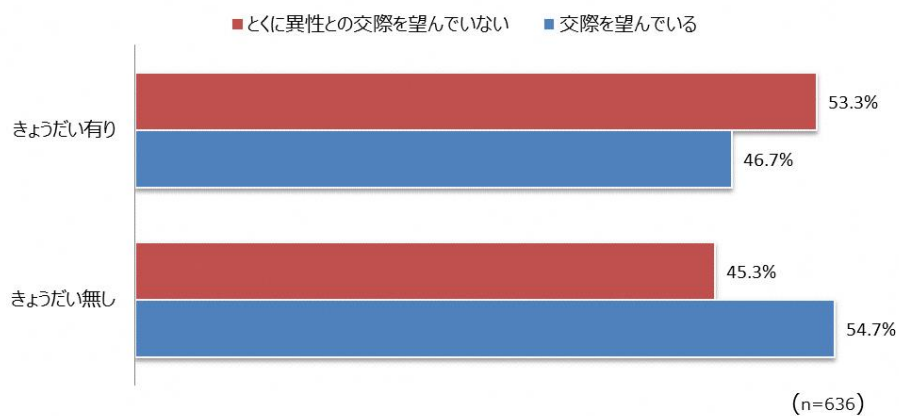
### 交際状況（学生/社会人）



### 交際状況（きょうだいの有無）

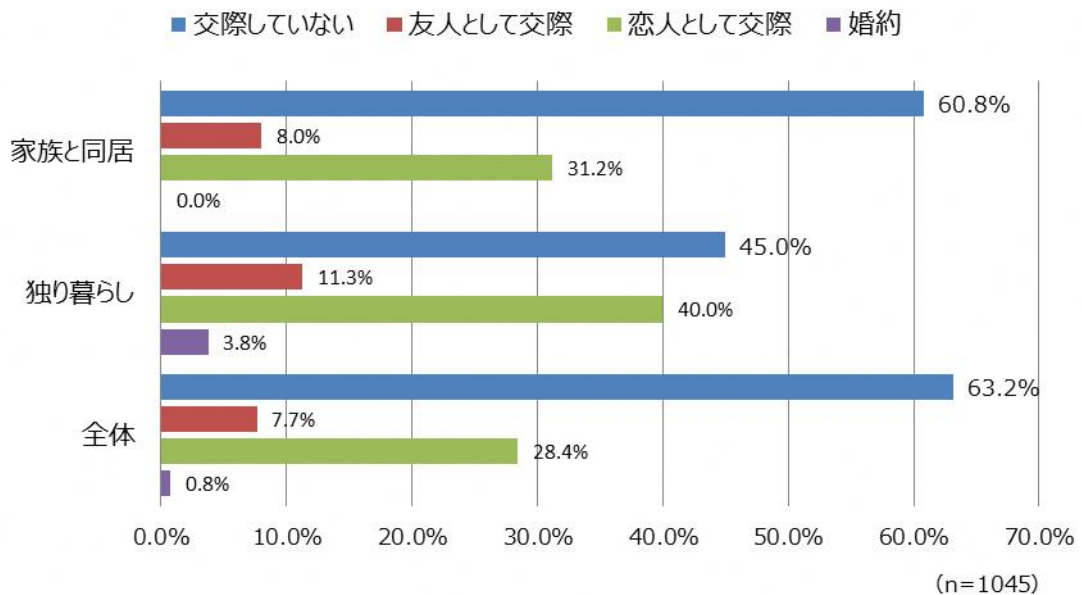


### 交際の希望（きょうだいの有無）





## 生活環境別交際状況

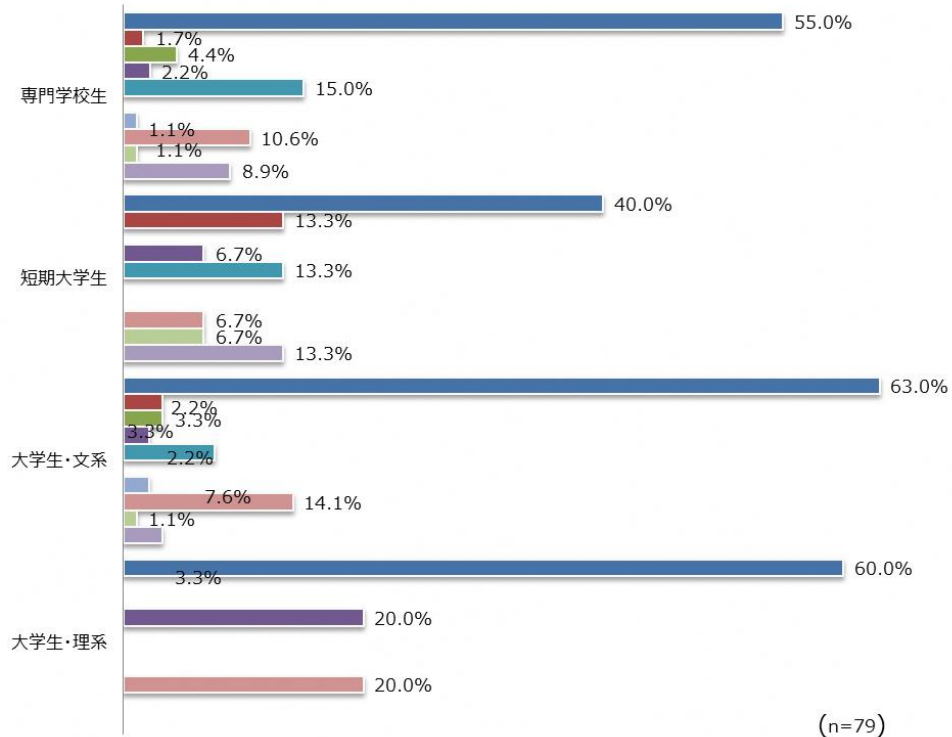


## ②出会い

- ・出会いに関しては男女とも「学校で」が一番多く、「友達や兄弟姉妹を通じて」や「アルバイトで」が続き大きな差はみられない。
- ・学部別にみると短期大学生は多様な出会いにより交際に進んでいるのに対して、大学生理系に関しては「学校」「学校以外にサークル」「アルバイト」と出会いのパターンが少ない特徴がみえる。
- ・年代別にみると20歳未満で52.7%、20～24歳で52.3%、25歳以上で71.4%の人が交際のきっかけを「学校で」と回答。学校を卒業した25歳以上で交際中の人は学生からの交際の継続が多く新しい出会い、交際は少ない傾向がみられる。

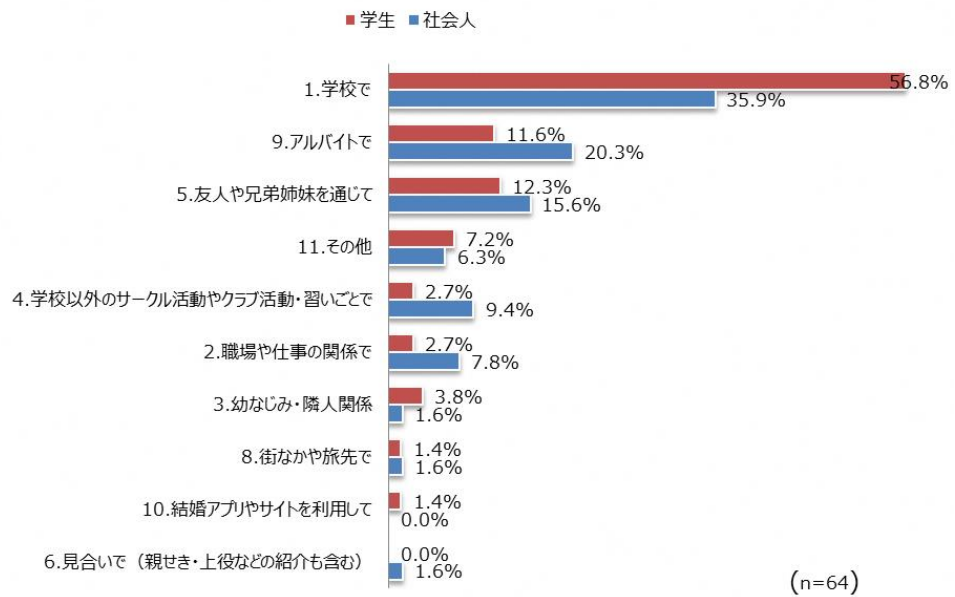
### 学部別の交際のきっかけ

- 1. 学校で
- 2. 職場や仕事の関係で
- 3. 幼なじみ・隣人関係
- 4. 学校以外のサークル活動やクラブ活動・習いごとで
- 5. 友人や兄弟姉妹を通じて
- 6. 見合いで（親せき・上役などの紹介も含む）
- 8. 街なかや旅先で
- 9. アルバイトで
- 10. 結婚アプリやサイトを利用して
- 11. その他



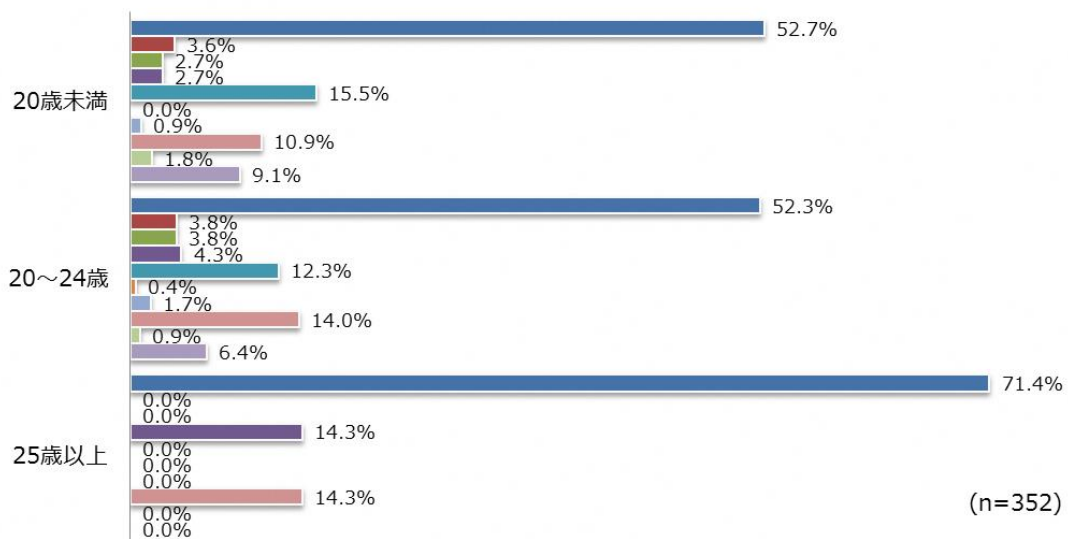
(n=79)

### 交際のきっかけ（社会人/学生） 1



### 年代別交際のきっかけ

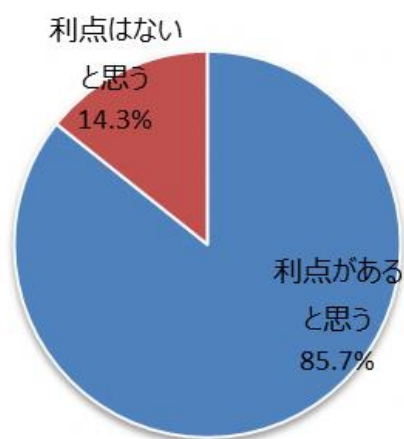
- 1. 学校で
- 2. 職場や仕事の関係で
- 3. 幼なじみ・隣人関係
- 4. 学校以外のサークル活動やクラブ活動・習いごとで
- 5. 友人や兄弟姉妹を通じて
- 6. 見合いで（親せき・上役などの紹介も含む）
- 8. 街なかや旅先で
- 9. アルバイトで
- 10. 結婚アプリやサイトを利用して
- 11. その他



### ③結婚の意志、希望

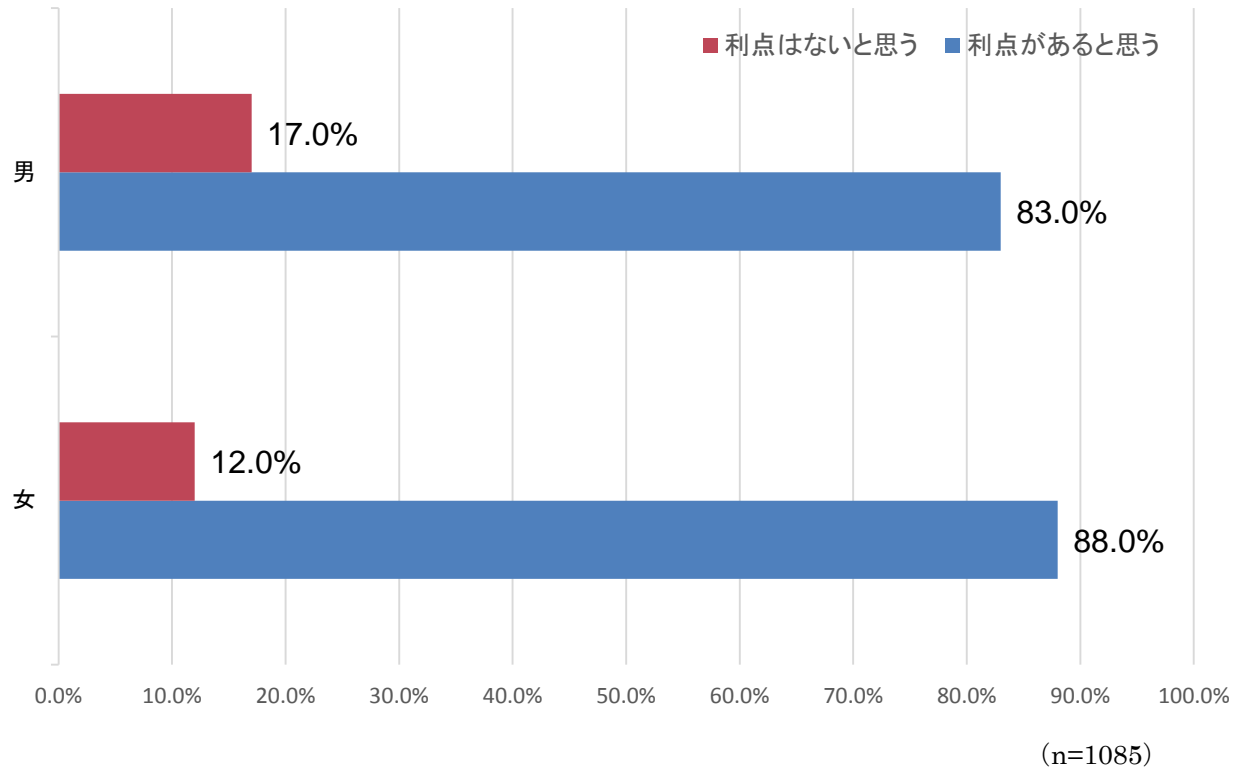
- ・「結婚についてメリットがある」と回答した人は全体の 85.7%で、男女別では多少女性の方が結婚にメリットを感じている傾向がある。
- ・「独身についてメリットがある」と回答した人は男女とも「結婚にメリットがある」と回答した人を上回る。
- ・独身にメリットを感じる一番の理由として男女ともに 70%前後が「行動や生き方が自由」と回答している。
- ・学部別にみると、大学生理系は他の学生と比較して「結婚にメリット」を感じる人がやや少ない傾向にある。
- ・一生を通じて考えたら男女とも 85%以上が「いずれ結婚するつもり」と回答し、63%以上が結婚のタイミングは「ある程度の年齢までには結婚するつもり」と回答している。
- ・将来子どもが欲しいと回答した人の内、「最初の子供を持ちたい」ともっとも多く回答している年齢が男性 30 歳、女性 25 歳の為、結婚年齢を男性 29 歳、女性 24 歳以下と考えていると思われる。
- ・県内出身者は結婚生活を愛媛県で送りたいという希望が多かった。地区別には東予出身者は、中予、南予出身者と比較して、県外での結婚生活を希望するポイントがやや高い。

#### 結婚のメリットはあるか

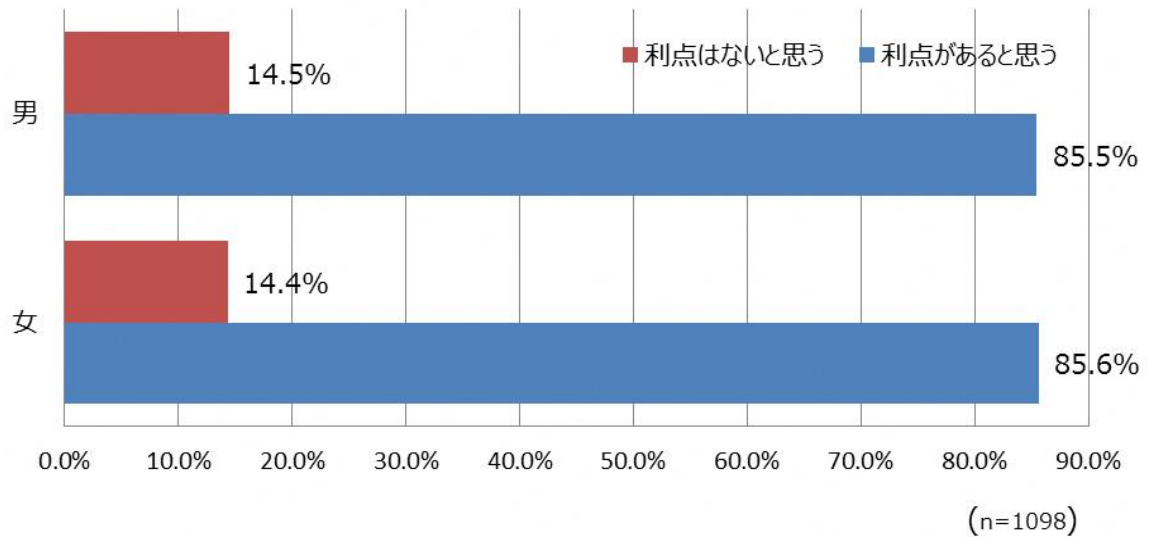


(n=1085)

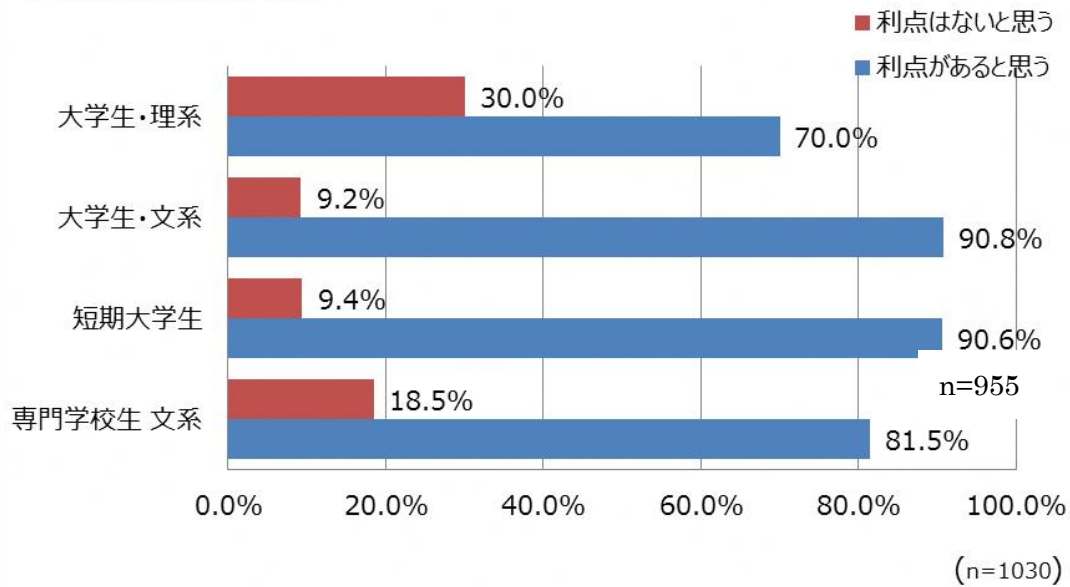
### 男女別結婚のメリット



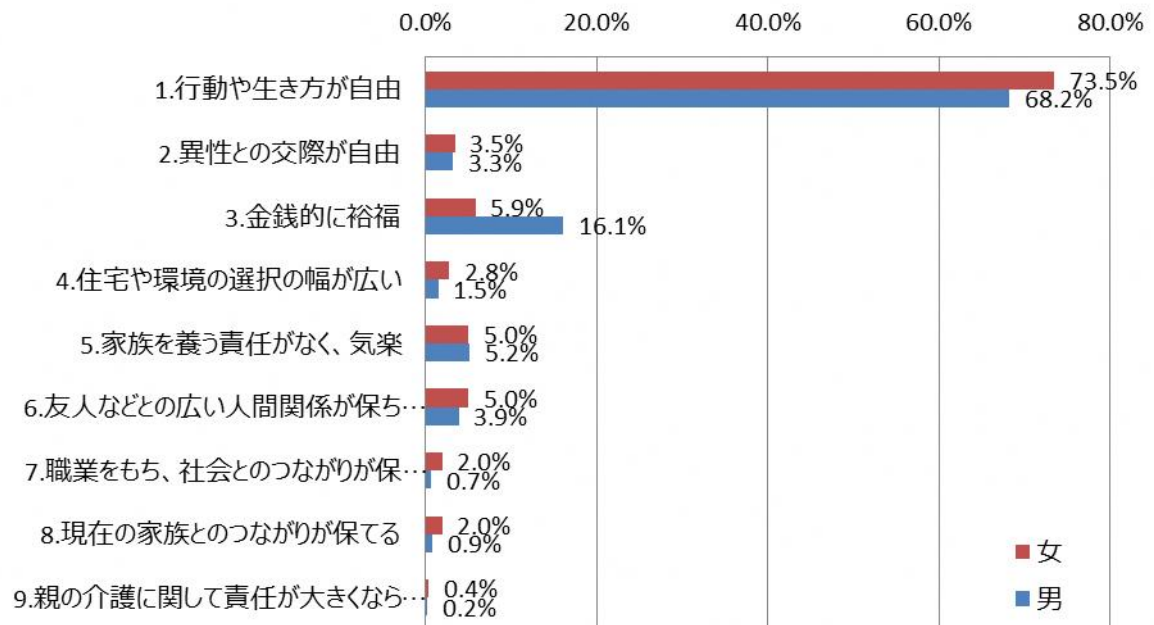
### 男女別独身のメリット



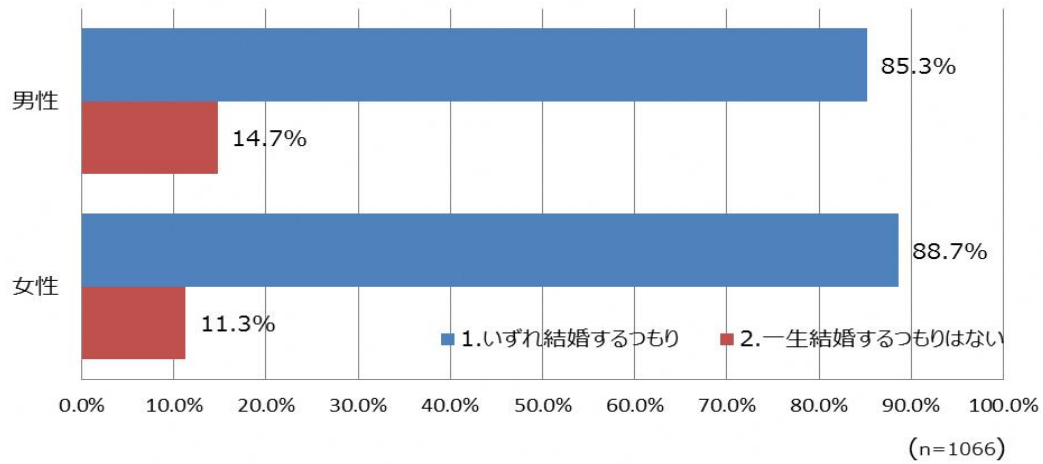
### 学部別の結婚のメリット



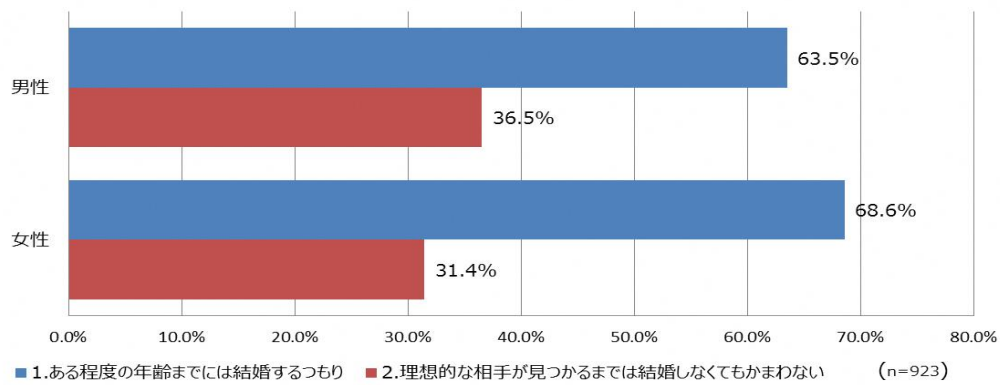
### 男女別独身にメリットを感じる1番の理由



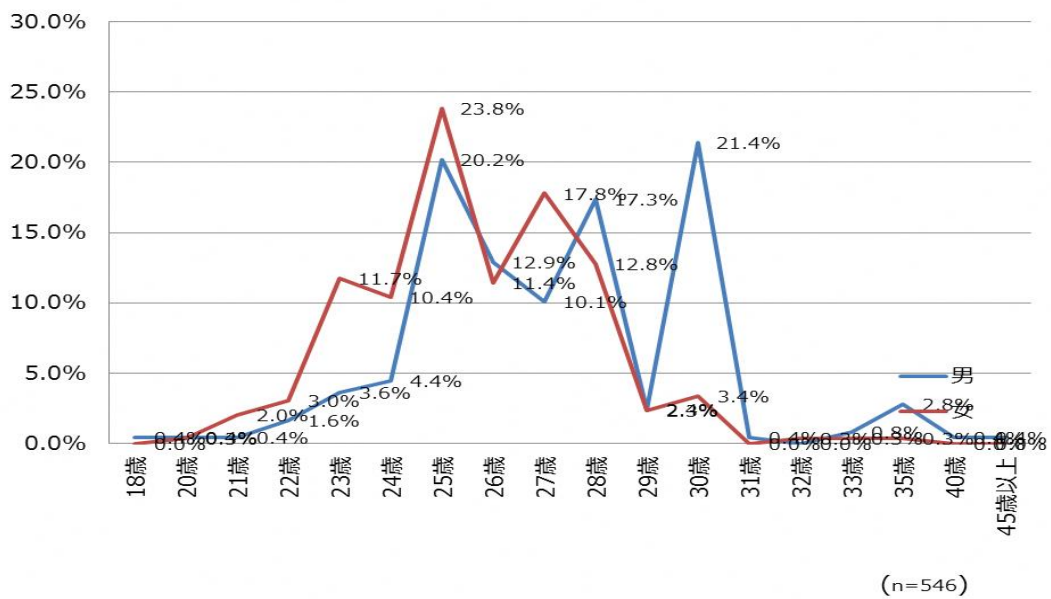
### 男女別結婚するつもり



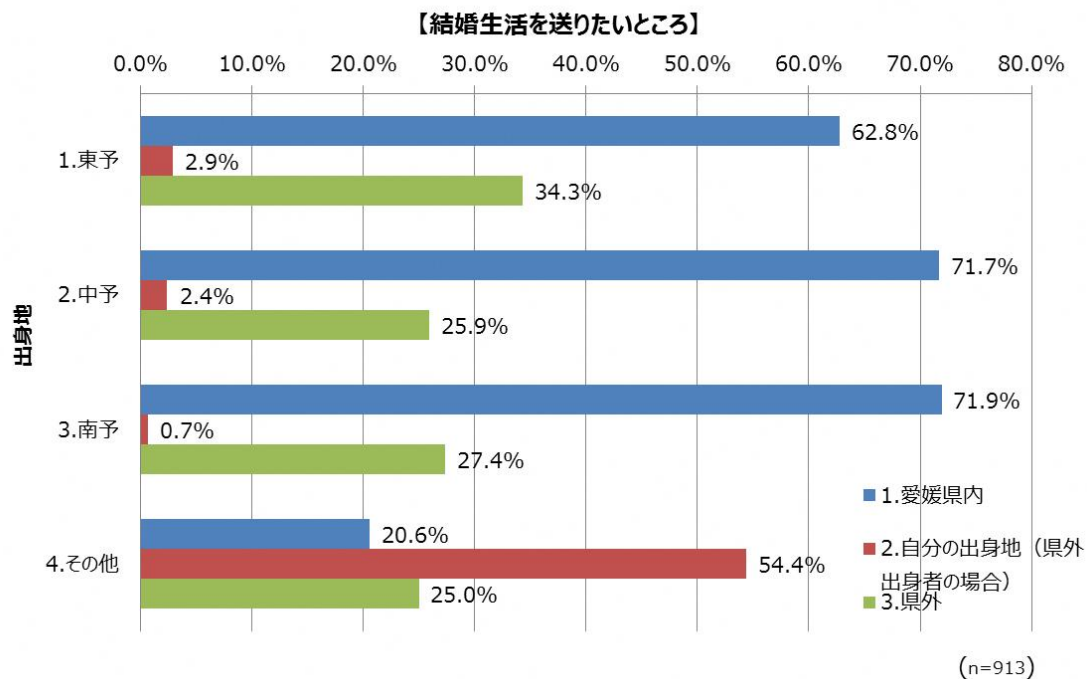
### 男女別結婚するタイミング



### 最初の子供を持ちたい年齢



## 出身地別結婚生活をおくりたいところ



## 5) まとめ

結婚を意識することの少ないと思われる学生・新社会人について分析する。

まず「結婚する意志があるのか」という質問には男性 85.3%、女性 88.7%が「いずれ結婚するつもり」と回答している。「結婚にメリットがあるか」という質問には 85.7%の人が「メリットがある」と回答をしているが、逆に男女とも同じく 85%以上の人が「独身にメリットがある」とも回答している。その理由として男性も女性も「行動や生き方が自由」を一番にあげている。現在独身でいる理由には「結婚するには若すぎるから」が 42.0%、「今は仕事や学業に専念したいから」が 23.9%となっている。若者の皆さんは結婚に対してネガティブな印象で消極的というよりは、独身の気楽さや仕事や学業への興味で現実的に結婚がイメージ出来てないと思われる。

交際状況は男性は 67.2%、女性は 59.2%が「交際している人はいない」と回答し、そのうち男性で 54.4%、女性 51.3%が「交際を望まない」と回答している。学生の所属でみると「交際している人がいない」と回答した人は、短期大学生 82.4%、大学生・理系 75.0%、専門学校生 64.2%、大学生・文系 52.3%の順になる。そのうち「異性との交



際を希望する」と回答したのは、短期大学生 44.7%に対して大学生・理系は 20.0%と半減する。

逆に交際している人の内、知り合ったきっかけをみると「学校で」という回答が一番多かったが、専門学校生、短期大学生、大学生・文系と比較して、大学生・理系は知りあうきっかけ（パターン）が少ない。

おそらく交際している人が比較的に多い大学生・文系に比べて、授業や試験の多い短期大学生、大学生・理系の若者は交際より学業を優先しているのではないかと思われる。

育った環境でみると「交際している異性はいない」と回答したのは「きょうだいのいる人」が 59.5%に対して「きょうだいがいない人」が 70.9%と高くなるため何らかの影響があるのかもしれない。

現在の環境では、おそらく独り暮らしと思われる「県内出身で県外在住者」「県外出身で県内在住者」と親と同居していると思われるその他の人の交際状況を比較すると、親と同居している若者の 60.8%が「交際していない」と回答したのに対して、独り暮らしと思われる若者は 45.0%と減少している。

親元から離れて独立した生活が、異性との交際に積極的になる効果があると考えられる。

学生や新社会人を中心とした若者は、結婚に対してネガティブな意識は少なく将来的には結婚する意志はあるが、具体的に結婚をイメージする機会が少なく、学業や仕事、アルバイト等を優先し交際する機会が少なくなっていると思われる。親元からの独立しての自立や異性と知り合うチャンス、結婚をイメージする状況を整備することで、改善して行けるとと思われる。